

10月号他ページの主な記事
2面 5ヵ年誓願必成のために 小西日演、10支・長薫寺 日薫上人の御23回忌
3面 1支・江北布 クイズラリー開催、7支・東北南部布 教養大会を開催
4面 「夏休みの思い出特集」 海外弘通日より、佛立Q&A
5面 権大僧正列伝、青年教務会
6面 体験談：2支・清聲寺 古島啓太氏
7面 福岡日雙師の英語教本、6支・易行寺 お盆のいわれを人形劇で
8面 開導聖人を支えたご信者物語 第10回、2支・妙光寺 こども御会式を奉修

佛立新聞

THE BUTSURYU SHIMBUN

平成29年10月1日発行
発行所
本門佛立宗務本庁
京都市上京区御前通一条上 東野町110番地 (〒602-8377)
電話 (075)461-1166 (代)
振込口座 京都 18650
発行人 永江日盡 / 編集人 橋口清遠
購読料加料 一部 50円

佛立第19世 本山第60世 講尊 日裔上人ご遷化



佛立第19世・講尊 梶本日裔上人

平成二十九年九月二日午後四時四十五分 法寿九十五歳 一期の化導果たされ

佛立第十九世講有・本山宥清寺第六十世住職・誕生寺第六世住職・講尊・梶本日裔上人は、去る九月二日午後四時四十五分、ご老衰のため、ご遷化あそばされた。法寿九十五歳であった。これを受け、九月五日午前十一時より、講有・日良上人導師のもと、誕生寺葬が執行された。なお宗葬は、来る十二月五日、本山宥清寺にて執行される。

九月五日 誕生寺葬を執行

上人は近年、折に触れて「これが最後かもしれない」と口にされていたが、本年寒修行中、誕生寺教務一同に対してご自身の葬儀の準備開始を指示。葬儀及び弟子らは御意を体して事に当たっていた。四月の開導聖人ご生誕二百年慶讃本山法要をお勤めになった上人は、五月頃から体力の衰えが目立ち、立つようにならなくなった。朝参詣や御講へは連日お出ましになり、御法門やお折伏は依然として厳しくあられた。七月の慶讃本山法要では衰弱を隠せぬお姿やお声ながら、上人御身の内に燃えたるご信心やお慈悲のほとばしる渾身の御法門をなされた。八月に入ると、ご奉公も思うに任せず朝のご出仕すらままならなくなり、門や慈悲をもつて家族や弟子、信徒らに接せられ、七月の慶讃本山法要で、そして九月二日夕刻法宅にて俄に不調を訴えられ、お側に添って唱題する家族と目を見交わされ、まさに眠るが如く、午後四時四十五分、化を

寂光に遷された。日裔上人ご遷化の報は直ちに本山宥清寺をはじめ全国寺院、海外教区にまで通知された。上人のご遺体は三日午後三時にお戻りになり、誕生寺御内仏の間に納棺の儀が執り行われた。同日午後六時、隨應寺住職・岡本日盈導師のもと、仮通夜が行われ、式場の御内仏の間に参列者が収まらず、本堂や食堂にまで溢れた。翌四日、荘厳された本堂へ上人の棺は移動され、午後五時から講尊・山内日開上人ご唱導のもと本通夜の儀・第一座が、引き続き午後六時三十分か



誕生寺本堂に荘厳された日裔上人本葬儀の祭壇

ら講尊・小山日誠上人ご唱導のもと第二座が執り行われた。ともに式場の本堂は満席、別席にもあふれた参列者のお焼香は長蛇の列となった。しかし、上人のご発願を端緒とし、昨秋無事開堂の盛儀を迎えた誕生寺新本堂は、多数の参詣も混乱なく収められ、上人の包容力を彷彿とさせた。翌五日午前十一時、講有・日良上人導師のもと有縁の教誨多数が参列し、誕生寺葬の礼を以て本葬儀が厳肅に執行された。講有上人による歎徳言上の後、第一宗務支庁を代表して松本現喬支庁長が弔辞を奉読。遺弟を代表して奥山日典師が、誕生寺信徒を代表して小林利之事務局長が、お別れの言葉を述べた後、誕生寺教養五会各会長が、それぞれお別れの言葉を奉呈した。

一言

十月は運動会のシーズンだが、開会式の校長先生の挨拶を思い出した。それは「努力は足し算、協力は掛け算」ということ。熱い最中、練習を重ねて、中々できなかったことができるようになる。成果が積み重なるのです。そして、それぞれが努力した事を持ち寄り、より大きなことを成し遂げるのです。一人ひとりの力は小さいかもしれないけれど、協力する事によって、何倍も何十倍にもなるのです。しかし、その大勢の中で「自分一人ぐらいいはサボっても変わらない」という「ゼロの心」の人がいたらどうでしょう。掛け算です。一人でも「ゼロの心」の人がいたら出てくる答えは「ゼロ」になってしまいます。一人ひとりが持てる力を十分に発揮してください。という話だった。これは何も運動会ばかりでなく、普段の生活や地域の活動でも同じ。思い合って支え合うことが大切で、無関心が「ゼロの心」となってしまう。開導日裔聖人ご生誕二百年「慶讃ご奉公も残すところ二ヵ月。誰もが無関心「ゼロの心」を排除して、何が何でも誓願必成のために励まねばならない。私のお寺は、もう達成できているからではなく、達成できていない他のお寺に協力し、宗門全体の必成に向け精進させていた。今更との思いを捨て、慶讃ご奉公円成のため「努力は足し算、協力は掛け算」を合言葉に最後まで異体同心の協力を。

二時間に亘る本葬儀の後、最後のお別れを済ませられた上人は、参列者の唱題の中、遺弟のお供により誕生寺を後にされた。午後三時三十分、火葬場からお帰りになられた上人の火滅已後取捨御舍利のご回向が西村日要住職のもと営まれた。宗葬は十二月五日、宗葬は十二月五日、日午前十一時より、講有日良上人導師のもと、本山宥清寺において厳修される。

10月のこよみ

14日 門祖日隆大聖人御生誕
高祖日蓮大士御入滅後、百四日目にあたる至徳二年(三八五)十月十四日、高祖の御教を清らかな法水に戻すべく、富山県射水郡浅井嶋村に産声をあげられました。父君は桃井尚儀公、母君は益子様。
17日 貯蓄の日
昭和二十七年十月十七日、日本銀行が勤労の取極物であるお金を、無駄遣いせずに大切にしようという意味を込め、制定した記念日。
18日 統計の日
大正十五年三月、十五歳で第十五日辰上人のもとで得度。戦後、乗取寺の執事長として復興に向けご奉公に尽力。川口宇都宮、福島、福島の乗取寺門末の寺院でご奉公。昭和六十三年、宗務本庁弘通局長、その後、宗務総長に就任。平成八年七月には第二十二世講有として、宗門問題では総責任者となり、その解決に尽力された。同十三年、法寿九十二歳でご遷化。
23日 電信電話記念日
明治二年九月十九日(新暦一八六九年十月二十三日)に、東京・横浜間の電信線架設工事に着手したことに因む記念日。
24日 国連の日
国際連合が発足したのに因む記念日。日本は昭和三十一年に加入が認められた。
26日 原子力の日
27日 読書週間(この日から十一月九日まで)

今月の宗門行事予定

7日 平成二十九年年度叙任式
8日 佛立開導日裔聖人ご生誕二百年 慶讃本山法要奉修
22日 佛立第二十二世講有日裔上人七十七回御忌
1日 法の日
9日 体育の日(十月の第二月曜日)
「スポーツにたししみ、健康な心身をつちかう」ことを趣旨として、昭和四十四年から設けられた国民の祝日。平成十二年から「ハッピーマンデー制度」の適用により、十月の第二月曜日となっている。
9日 世界郵便デー(万国郵便連合記念日)
万国郵便連合が発足。この日に因り、昭和四十四年に世界共通の「万国郵便連合(U.P.U.)の日」が設けられ、昭和五十九年に名称が「世界郵便デー」に改められた。
10日 目の愛護デー
13日 高祖日蓮大士御入滅
弘安五年(二二八)九月八日、常陸(茨城県)の湯にて病を治すべく、八年五月月の間住みなれた身延をお発ちになり、十八日池上宗仲の館(東京都池上)にお着きになりました。が、旅の疲労も加わってこれ以上、旅を続けることができなくなり、十月八日、六老僧(日昭)を決められ、十日、日昭、日持、日明、日興、日頂、日持、信者方に御遺物分けがあり、十一日に幼少の門人、経一磨(後の日像聖人)に京都の布教を遺命し、十三日の辰の刻(午前八時)ご入滅になりました。聖寿六十一歳。
14日 鉄道記念日
明治五年九月十二日(新暦一八七二年十月十四日)に、日本初の鉄道(現在の東海道本線の一部が開業。この日に因り、平成六年に設けられた。